

野菜の需給・価格動向レポート(平成25年12月2日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		生育及び価格の12月の見通し			
	(参考) 保証基準額の 算定の基とな る平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック別 平均販売価額	(参考) 保証基準額の 算定の基とな る平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック別平均販売価額				
	下旬	上旬	中旬					
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	96	66.30	89	90	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：12,910 (94) ・主産地：愛知 (51)、千葉 (26)、神奈川 (9)、茨城 (8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知産は、夏の高温、少雨のため根の張りが悪く小玉傾向で少なめの出荷となっており、今後も引き続き少なめの出荷の見込み。千葉産は、11月中旬の気温の低下により小玉傾向のため、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
		88.91	109	69.92	99	107	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：3,900t (96) ・主産地：愛知 (63)、大阪 (5)、兵庫 (5) 	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	218.22	269	218.22	245	255	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込数量：6,320 (99) ・主産地：千葉 (23)、茨城 (18)、埼玉 (17)、群馬 (13)、栃木 (8)、輸入 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉産は、台風の影響で細め傾向で、曲がりの発生や正品率の低下がみられ、少なめの出荷で、今後も少なめの出荷となる見込み。茨城産は、台風の影響から曲りや折れがあるものの、平年並みの出荷で、今後は出荷のピークに向けて出荷量が増加する見込み。埼玉産は、順調な生育で平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		444.77	535	444.77	614	646	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込数量：230t (101) ・主産地：徳島 (22)、奈良 (14)、高知 (14)、三重 (11)、大阪 (11)、群馬 (10)、香川 (9) 	
	はくさい 	54.1	71	36.65	73	77	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：14,380t (96) ・主産地：茨城 (95) 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城産は、台風と曇雨天の影響による病害の発生に加え、11月中旬の低温の影響により小玉傾向となっていることから、少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		69.44	77	53.29	86	96	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：5,400t (96) ・主産地：茨城 (29)、愛知 (16)、熊本 (13)、和歌山 (10)、岡山 (8)、宮崎 (8)、大分 (6) 	
	ほうれんそう 	350.1	596	350.1	628	644	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：1,290t (94) ・主産地：群馬 (43)、千葉 (18)、茨城 (16)、埼玉 (12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬産は、台風等の影響による蒔き直しに加え、11月中旬の低温の影響で生育の遅れがみられ、少なめの出荷となっており、今後は出荷量が増加するものの平年には届かない見込み。千葉産は、少なめの出荷の見込み。埼玉産は、9月の台風の影響で一部蒔き直しをしたこと等から生育に遅れがあり、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		419.76	632	419.76	753	689	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：590t (99) ・主産地：徳島 (50)、福岡 (28)、岐阜 (10)、群馬 (6) 	
果 菜	レタス (結球) 	158.27	153	136.79	199	212	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：6,710t (101) ・主産地：静岡 (34)、兵庫 (14)、茨城 (14)、香川 (9)、千葉 (4)、福岡 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡産は、11月中旬の低温の影響で少なめの出荷で、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産は、定植初期の降雨の影響と、11月中旬の気温の急激な低下により少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。茨城産は、生育期の降雨と台風の影響で、少なめの出荷となっており、今後はピークを過ぎ減少傾向で、平年より少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷がと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		152.57	178	147.25	235	233	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：1,300t (127) ・主産地：兵庫 (43)、徳島 (25)、香川 (8)、長崎 (7)、熊本 (7) 	
	たまねぎ 	76.15	102	76.15	106	113	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：10,860t (93) ・主産地：北海道 (88)、輸入 (7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産は、収穫が終了。生育期の少雨等の影響で肥大が進まず全体的に小玉傾向となっており、平年を下回る出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.15	113	76.15	117	124	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：3,200t (75) ・主産地：北海道 (79)、兵庫 (20) 	
	きゅうり 	262.75	459	262.75	543	413	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：4,220t (97) ・主産地：宮崎 (40)、千葉 (19)、高知 (16)、埼玉 (14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎産は、加温の効果もあり順調な生育で、ピークを迎える平年並みの出荷の見込み。千葉産は、日照量にも恵まれ、生育が回復傾向となり、平年並みの出荷の見込み。高知産は少なめの出荷となっているものの、今後はピークを迎える、出荷量が増量する見込み。 ・順調な出荷が見込まれることと、年末に向かい平均価格の水準が高まるところから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		284.72	443	284.72	535	376	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：1,000t (102) ・主産地：宮崎 (50)、高知 (25)、徳島 (10) 	
	トマト (大玉) 	315.83	384	315.83	387	431	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：4,770t (98) ・主産地：熊本 (48)、愛知 (19)、千葉 (8)、静岡 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本産は、11月中旬の気温の低下で、着色が遅れ少なめの出荷となっている。今後は、出荷量の増加が見込まれるものの、平年には届かない見込み。愛知産は、11月中旬の気温の低下により着色が遅れ、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産は、小玉傾向だが、順調な出荷で平年並みの出荷の見込み。 ・熊本産及び愛知産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		337.88	369	337.88	394	426	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：890t (99) ・主産地：熊本 (60)、愛知 (14)、徳島 (8)、福岡 (6) 	
	なす 	301	381	301	429	423	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：1,650t (98) ・主産地：高知 (62)、福岡 (16)、佐賀 (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知産は、11月中旬の気温の低下の影響もあり少なめの出荷となっているものの、今後は平年並みに回復する見込み。福岡産も、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は平年並み若しくはやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産及び福岡産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		263.21	331	263.21	401	406	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：330t (100) ・主産地：高知 (33)、熊本 (29)、福岡 (19)、岡山 (11) 	
根 菜	ピーマン 	263.58	326	344.39	525	460	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：1,330t (98) ・主産地：茨城 (36)、宮崎 (35)、高知 (16)、鹿児島 (13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城産は、秋作の終盤期を迎える中で平年より早めの切り上がりとなり、今後徐々に減少する見込み。宮崎産は、生育は順調で、平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。
		282.16	341	353.61	500	438	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：250t (102) ・主産地：宮崎 (61)、高知 (24)、鹿児島 (13) 	
	だいこん 	64.33	105	64.33	86	90	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：13,030t (98) ・主産地：神奈川 (48)、千葉 (42) 	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川産は、小ぶりで少なめの出荷となっているものの、今後は、出荷量が増加し、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、出荷のピークを迎えるが、生育は低温の影響で小ぶりとなっており、平年より少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		76.48	119	76.48	106	93	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：3,600t (100) ・主産地：鹿児島 (33)、和歌山 (29)、長崎 (18)、徳島 (14) 	
	にんじん 	123.08	117	100.82	130	157	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：8,070t (91) ・主産地：千葉 (77)、埼玉 (7)、茨城 (4)、輸入 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉産は、夏場の高温と生育時の少雨で小ぶりであったことに加え、台風の冠水の影響もありさらに少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。埼玉産は、低温の影響により、生育の遅れがみられたものの、11月下旬の好天により、生育は回復傾向で平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		123.11	121	104.49	134	179	<ul style="list-style-type: none"> ・入荷見込量：2,100t (93) ・主産地：長崎 (72)、鳥取 (16)、鹿児島 (7) 	

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		生育及び価格の12月の見通し			
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・ 近畿ブロック別 平均販売価額	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック別平均販売価額				
	下旬	上旬	中旬					
いも	さといも	200.88	239	200.88	231	239	・入荷見込量：1,960t (98) ・主産地：埼玉 (51)、千葉 (22)、輸入 (5)、栃木 (4)	・埼玉産は、順調な生育で、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏場の少雨の影響により小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は平年を上回って推移する見込み。
	ばれいしょ	207.2	295	207.2	264	281	・入荷見込量：404t (-) ・主産地：愛媛 (27)、宮崎 (26)、福井 (18)、熊本 (12)、輸入 (7)、奈良 (4)、千葉 (3)、大分 (3)	・北海道産は、収穫が終了。地域により作柄に違いはあるが、全体では最も出荷の多い十勝の作柄が良かったことから、平年並みの貯蔵量の見込み。 ・貯蔵ものの計画的な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、現状程度の水準で推移する見込み。
	さといも	88.17	97	88.17	97	98	・入荷見込量：9,120t (99) ・主産地：北海道 (81)	・北海道産は、収穫が終了。地域により作柄に違いはあるが、全体では最も出荷の多い十勝の作柄が良かったことから、平年並みの貯蔵量の見込み。 ・貯蔵ものの計画的な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、現状程度の水準で推移する見込み。
	ばれいしょ	88.17	97	88.17	96	97	・入荷見込量：3,800t (93) ・主産地：北海道 (78)、長崎 (22)	・北海道産は、収穫が終了。地域により作柄に違いはあるが、全体では最も出荷の多い十勝の作柄が良かったことから、平年並みの貯蔵量の見込み。 ・貯蔵ものの計画的な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、現状程度の水準で推移する見込み。

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
2 別々平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るものの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と別々平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,225gで前年比100%、購入金額は、1,932円で同110%となり、購入数量は前年並み、購入金額はかなり上回った。また、小売物価統計によると、11月のキャベツの小売価格は、188円で過去5か年平均比121%、レタスは、574円で同149%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を大幅に上回った。	生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)						主要野菜の小売価格(東京都区部)(単位：円/kg)					
	年	過去5か年平均	平成24年		平成25年		過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入数量(g)	前年比	前年比(%)	購入数量(g)	購入金額(円)	前年比(%)
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102	102	187	203	109
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95	95	203	204	100
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96	96	207	181	88
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95	95	248	207	83
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96	96	175	133	76
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101	101	140	137	98
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106	106	149	173	116
8月	4,318	1,689	4,245	1,618	4,422	104	1,741	108	108	138	140	101
9月	4,839	1,783	4,916	1,703	4,577	93	1,863	109	109	142	160	113
10月	5,280	1,840	5,242	1,761	5,225	100	1,932	110	110	150	182	121
11月	5,030	1,630	5,039	1,602	5,225	0	0	0	0	155	188	121
12月	5,140	1,837	5,169	1,888	5,169	0	0	0	0	148	0	495

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成20～24年の平均。
2 平成25年11月の値は、11月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

10月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年比112%の7万2千トン、加工野菜は、同99%の22万7千トン、うち中国は同104%の12万8千トンとなった。生鮮野菜は、前年をかなり上回り、加工野菜はやや下回り、野菜全体は前年並みであった。	野菜の輸入数量						主な野菜の輸入数量						
	区分	平成23年		平成24年		平成25年1～10月		平成25年10月		品目	輸入先	平成24年10月(A)	平成25年10月(B)
		前年比	購入数量(g)	前年比	購入数量(g)	前年比	前年同期比	前年同期比	前年比(%)	たまねぎ	合計	26,379	37,481
生鮮野菜		915,091	112	946,931	103	689,819	85	71,723	112	中国	22,758	29,267	129
加工野菜		1,803,510	107	1,909,671	106	1,533,467	98	155,715	95	アメリカ	3,597	8,203	228
野菜合計		2,718,600	109	2,856,601	105	2,223,286	93	227,438	99	にんじん	7,421	7,198	97
うち中国産野菜合計		1,409,984	110	1,458,418	103	1,136,843	94	128,408	104	中国	7,279	7,113	98
中国産シェア		52		51		51		56		オーストラリア	108	49	45

資料：ベジ探(原資料) 財務省「貿易統計」

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成25年10月は、速報値。

4 トピック ～ ほうれんそうの需給動向～

これから冷え込みが増すなかで、糖度が上がっておいしくなり、家庭の購入量が11月から3月にかけて増える葉物野菜がほうれんそうである。 ほうれんそうの1人当たり購入数量を地域別にみると、東北、北陸、などの東日本は、九州、中国、沖縄などの西日本に比べて多い傾向がみられる。また、県庁所在地でもついで、秋田市、盛岡市、仙台市での購入量が多くなっており、例えば、秋田ではほうれんそうと豚肉が入った常夜鍋として、岩手では味噌汁の具やおひたしとして、身近な葉物野菜の一つとなっている。 国内の主要産地は、関東の千葉県、埼玉県、群馬県、茨城県と九州の宮崎県であり、東京中央卸売市場の入荷量をみて、年間を通して関東各県からの入荷が大半を占め、地産地消型に近い生産体制が作られている。 国内の供給量の推移をみると、大半が生鮮品である国内出荷量は最近減少傾向であるが、冷凍ほうれんそうの輸入が、国内生産の減少分を補う形で増加傾向にある。 国内主要産地の一つの宮崎は、近年、冷凍ほうれんそう
